

Not for
under
13 years.



FUNKY ANIMAL

THE SUPER

FUNKY ANIMAL ^{THE} SUPER

Not for
under
18 years.

FUNKY ANIMAL 目次

VAMPIRE SAVIOR (桐生蒼八)03

蜂女のキス (茶々木紀之)09

怪物さん対デミトリさん
濡れぬれ魔界大作戦 (ねりわさび)17

きえてしまった
もうひとりのわたしへ (文:美月ひな 絵:水原賢治) ...25

ハンターのゆううつ (こいでたく)35

アフリカ娘 とき☆めき☆香港ツアー(桐生蒼八).....41

あとがき55

おくづけ56

イラスト
(ISUTOSHI)08・09
(ユナイト双児)15
(レッドベア)16・24
(幡池裕行)34
(北かづき)39
(OGAI)40
(竹井正樹)54



VAMPIRE
BEHAVIOR

蒼生 桐生

「...」

「...」

「...」







おれは...
おれは...
おれは...

おれは...
おれは...
おれは...



おはようございます
おはようございます

おはようございます!!!
おはよう

Ishikawa
19.8

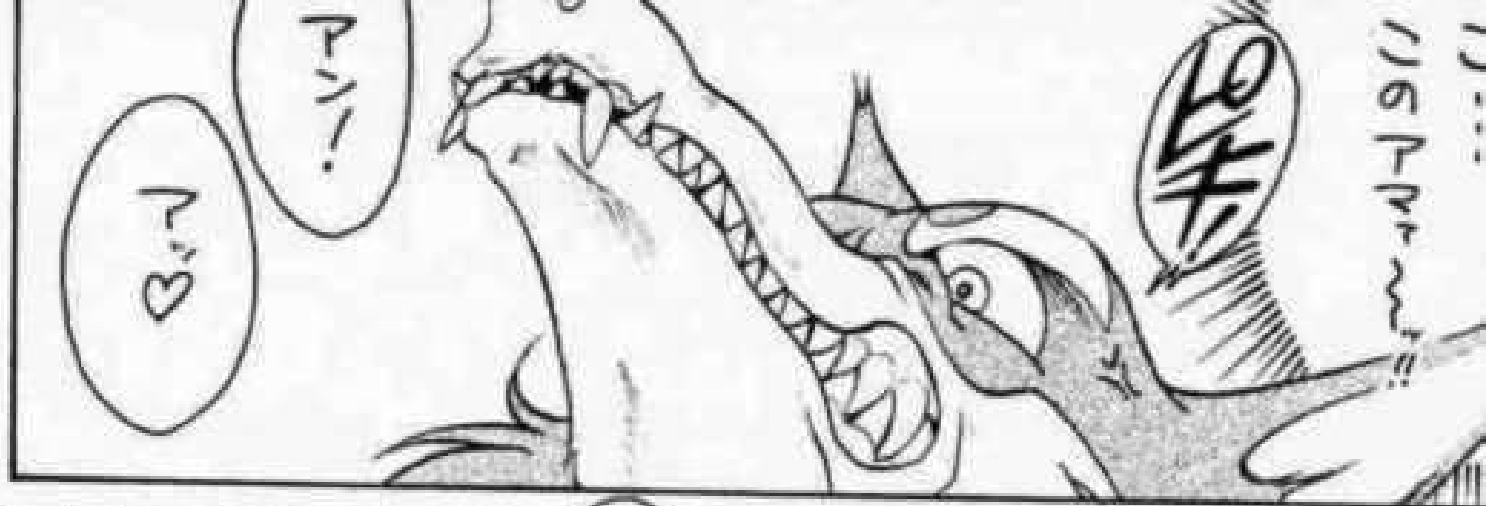
もう……
力が出ない……

ハハハハハ……

殺らるる!!

狐女の手





115 1-14-22

ガッ

アッ

ビッ



俺はかみぬか
んかかか
ころころ



かみぬか
ころころ

アッ

アッ

アッ



オッ?

アッ

ロニルニヌキ!!





……コ、コ、コ……
 蓄力の減った……

体力が回復する
 ンンン……？

……

しんぞくもいり



ゴシムリは
 ヴレは

ナカニ
 ゴシムリは

にゃ



……
 ンンン
 ナカニ

ゴシムリ
 ナカニ



キーン

キーン

お尻のふとろを食べたらんぞと





あーっ

あーっ
あーっ

あーっ

あーっ

あーっ
あーっ



あーっ

あーっ

あーっ

あーっ
あーっ



怪物さん対デミトリさん

濡れぬれ魔界大作戦

描いた人 ありおさび♡



ふっ、それは聞けんなあ...

いけませんわ サリー

このデミトリ様に刃向かった者がどうなるか...



たぶりと教えてやらねばいかんからなあ...

す...

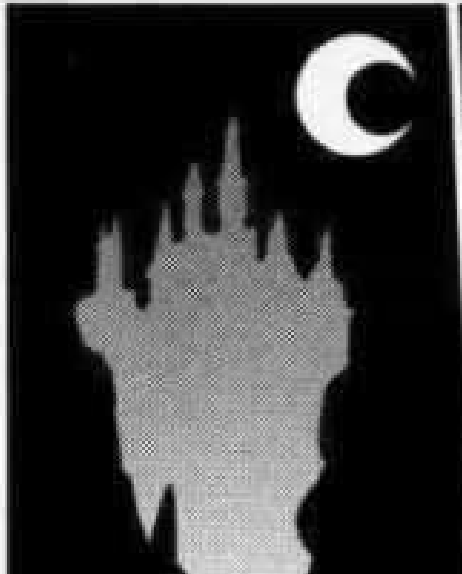
ひ... い... い...

フッ...

おん... NO...

び...







精を殆ど吸い取られて
しまったテートリのの
明日はどっちだよー



めでたしめでたし♡ 明日はどっちだよってスマン♡

ALIEN
VS
PREDATOR





きえてしまった
もうひとりのわたしへ

小説：美月ひな 原絵：水原賢治

いつも遠慮だった。
魔界を統一した今でも、

あたし、モリガン・アーンズラントにあっては勝利はすでにあたりまえのものだから、
いて、ありがたさがわかなくなっているのだ。

だから、せめて人間の間を回って、遠慮をまっすぐ示さなくなっている。
お父様の生き残っていたあのころのつもりで。

その日は妙に赤みがかった薄月の夜だった。

いつものように遠慮をまっすぐ示せば、身も心も中身のあたりは、
に気がついて、

わたしの回真の気配……
その気配は、不意な形をとり、眼の前で消えた。

ショートカットの、妖艶な……
わたしよりも少し背は小さいか。髪は、ない。わたしで違ふ、可憐な美しさを持ってい
る娘だった。

かすかに、肌がいい香りがする。
気配もそのうつくしさを帯びた……

「誰か、おまえを……」
思わずにいたが、その娘は、まわらば、

「遊ひませうか？」
と不意な言葉を吐いた。

ふふふ、
生意気な。

そう思わずにはいられなかった。

身のはり知らずに……
アーンズラントに誘われていた。

わたしは、
この娘は誰かか……

そう思わずにはいられなかった。

わたしの記憶には……
持っている……

いや、まあ、いいか。

わたしは首を横に振った。

どうせ、すぐに消える相手だから。

べろり、と、自分の右の人差し指をためた。

戦う前のわたしのくせだ。

そうしてかま、あつためて相手の方を見た。構えは、とっさの、第一、わたしへの反

応速度が早いと構えなど不要なのだ。

が、今夜のわたしは、ひとつだけは誤算をした。

相手も、同じくらい速かったのだ。

ふっ、と相手の姿が消えたような気がした。

次の瞬間、わたしの顔めがけて掌が突き出された。

反射的に、相手の腕を取る。

が、それが、攻撃の意思を持たない腕だ、というのはすぐにわかった。

「しまったー」

叫ぶ暇もない。

相手の体が、後ろに飛んだ。

なまし力を入れて腕を纏んでいたかま、わたしの体もひびくられた。

自分で自分のバランスを崩したというたものだ。

あっという間に、とりかえしのつかないほどバランスがくずれていた。

そして、

「シャインング・フレイトー」

相手の声が聞こえた。……どうな気がしたときには、すでにわたしの意識は吹き飛んで

いた。

なせや、

なぜわたしと同じ技をや、

意識がなくなる直前にそんなことを考えたという気がした。……

かすかに動くさい、衰弱したまのの、ゆるくくた意識が回復した。

体は、なにも身につけていないが、かま、わたしはわたしを捕らえようとしたため、とっさのひびく

たしを履きこりそりを追いつけず、

目の前に、わたしを倒した相手が、

わたしを眺めていた。

人間の欲望を最大に引き出す香りだった。

このままじゃ、いけない。

相手の唇を、思いきり、噛んだ。

食いちぎろう、と思ったのに、かすかに血が出ただけでおさまった。

ふん、つまらない。

睨みつけたが、相手にはまったく効果がない。相変わらず呆然とした顔をしている。

魔力さえあれば。

悔しさに自分の唇を噛んだとき、相手が、不意に、わたしの手首を撞った手に力をこめた。

骨が、砕けるかと思った。

……………

全身に、汗が吹き出した。

このまま本気で面手首を撞いたら、恐ろしく砕けてしまったらどう。魔力がなくなると、体の強さでも人間と同じくらいになるらしい。

人間と同じくらい……

なんの力もない、という意味ね。

魔界の女王ともあろうものがなまけない。

勝ちすぎて奢っていたか。知らない相手に油断するとはね。

相手の顔を見ると、いかにも「自分を受け入れろ」という顔を下している。

そんなことを認めるわけにはいかない。たとえ骨を砕かれても、プライドを砕かれるわけにはいかない。

ふいつ、と機を回くと。

相手がため息をつくのを感じた。どうやら、わたしの気持ちが変わったようだった。

わたしは、自分がまた相手を甘く見ていた、というのを思い知らされたのだった。

ふうっ、と。

甘くかくわしい息が、わたしの顔に吹きかけられた。

油断な人間を相手に、わたしが過去を何度も……わたしの壁力に対抗する人間はほとんど

いなかったから数えるほどだが、使った手だ。

妖魔の息は最高の媚薬にまみれた。

頭の芯が、くっつくようにした。

目の前に迫ってくる唇が、あまりにも魅力的に見えた。
柔らかな唇が、わたしの唇を覆った。

「ん……」

思わず、甘い声が出た。

こんなに抵抗しても、抑えようがない快感が体の芯から湧きだしてくる。

このまま、楽しんでしまおうかしら。

そうも思った。

とちやうどしてても、わたしをいじめるのも由田に任せておけばいい。第一由田半たきの癖
思があるとも思えない。

楽しみたいなら、そうすればいい。こっぴつう楽しんでも嫌じゃない。

わたしが主導権を握っていないのは嫌だ。

心が、そう言っただけ抵抗する。

ああ、でも。

こっぴつやっただけ抵抗も出さずに唇を奪われる感触のなんと気持ちのいいかわかるか。
いままでわたしの知らなかった楽しさであることは確かだった。

相手の唇が、わたしの唇から離れた。

舌の先が、首筋に触れた。

ぞくぞく……と。

電流のように快感が走った。

声ももれないように、必死で唇を噛みしめた。

こんな小娘を相手に快感のあえきを漏らすのがどうしても嫌だった。

どうしてこんなに意地になるのか、自分でもわからなない。

首筋を這っていた舌が、だんだんと胸の方に下りてくる。

舌が動くたびに、気が遠くなるほど気持ちいい。

そして、
相手の舌が、乳首の先をへらり、とよめた。

「ああ……」

なんていうのか。

こんな快感もあったのか、と思う。

人間の男に、体を自由にさせてやったってこともある。が、人間の男には、こんな快感を与
える能力はなかった。

こつやって体を蹂躪されるのは、そんなに悪いものじゃない。
心のどこかがささやく。

この染しみを、できるだけ味わおう、と。
指が、下半身へのびてきた。

そこはもうすっかり濡れていて、相手の指をすするり、と受け入れた。
ちよっと強引に、体の中で指が動いた。

その感触がもうたまらなくなき気持ちが出て、わたしは両手で顔を覆った。
快楽にあえく顔を見せたいために。

体がかあっ、と熱くなってる。
覚めた部分が、快楽の前に膝を屈してしまった。

「ふっ……ああっ……」
頭の中に白い光がちかちかとはじけるような熱がした。

全身の力が、甘く抜けていく。
もはや抵抗する気もなくなってる、ただあえくだけの人形になりはてようとしたとき。

「わたしの……好きだって言ってるよ」
耳元で、声がした。

わたしの……好きだって言ってるよ。
その言葉に、わたしは聞き覚えがあった。

その言葉は、かつて、わたしが言った言葉ではないのか。誰も愛してくれる人はいない
冷たい城の中で、鏡に向かって言った言葉。

眠れぬ夜を過ごすたびに鏡の中の自分にキスをしながら呟いた言葉。

誰も愛してくれない。お父様でさえ、わたしの力以外には興味を示さず、執事はただ任
事としてわたしに従っている。そういつたことに耐えられず、妖魔にあまじきことに愛
を求めた幼いわたし。

愛なんて所詮まやかして、一瞬の快楽に燃える……こそが妖魔の本質だと気がつく前の
わたしの言葉。

そのときになってようやくわたしは思い出したのだ。
より完全な妖魔になるために、力の一部を……に幼い感情を封印したとき。

「おまえ……わたしの……」
わたしに聞かれて、その娘はびくっ、と体を震わせた。

なまほじ。

わたしはかすかにうなづいた。
どういうはずみか、あのときのわたしの感情が、肉体を持ったらしい。
それなら、わたしに勝っても不思議ではない。基本的にはわたしと同じ能力を持っているのだから。

それにしても、

かつて封印した感情、とはね。

「ねえ、好きって言ってる」

かつてわたしだった娘は言った。

が、わたしは黙って首を横に振った。

「ここでこの娘を認めるのは、わたしの選択が間違っていたというふうな事だ。」

ただ、

その一言がど心に響いて欲しいか、おきくく「世の中ですら一番知ってるのはわたただろ。」

「ねえ、言ってる」

彼女の言葉は、だんだんと子供じみてきていた。わたしは肌を合わせて、感情に対しての軋みが刺激されたのだろう。

だが、わたしはそんなことを言う気はなかった。

それがいかにも不満そうに、彼女は、もう一度わたしの顔に息を吹き掛けてきた。

「ねえ、効かない」

どんな技を使ったのかは知らないが、意外効果時間の短いものだった。いい。いまのわたしは、再び魔界の女王に戻っていた。

「なんで、なんで効かないのっ」

彼女の声は、もう泣きそうになっていた。

可哀相い。

真直に思った。

可哀相な娘、そして、可哀相な昔のわたし。

わたしは、真直な気持ちで、彼女にキスをした。

びくくりしたような顔をしてわたしのキスを受け入れると、彼女は、とろろととろろと泣きそうなお顔になった。

そして、

キスをしたが、彼女の体がだんだんと軽くなっていくのがわかる。

わたしの体の中に吸収されているのだ。

「もっちはわたしの一部だったものが、わたしの中に帰っていき、唇を離すと、リリースはわたしにきゅうっ、と抱きついてきた。」

「好き、って言ってる……消えちゃうから……もっつ……」

「駄目だ。」

「なんで？」

「その言葉は妖魔の本質に反するし、わたしの主義にも合わない。」

「だって……それじゃ……わたし……」

「なんのために生まれてきたの？」

「という言葉が聞こえたような気がした。」

「まったくそのとおり、なんのために生まれたのか。魂の転成があるわけでもなく、死んでしまえば泡のように消えてしまふ妖魔としては、そう思わずにはいられない。」

「そして、きつと、誰かに覚えていて欲しいにちがいない。」

「わたしが覚えていてあげる……ずっ」と

「好き、のかわりに言ったのは、その言葉だった。」

「けれど、それを聞いて、リリースは安心したようにうなづいて。」

「そして、空気に溶け込むように消えた。」

「わたしの体の中に、リリースのかけらが入ったのを感じながら、ため息をついた。」

「愛なんてまやかしのに。」

「心の中に、妙な感情が身生えかけたが、わたしはそれを無視した。妖魔には必要のない感情だったから。」

「そして、わたしはなに……ともなかつたように城へと帰ったのだった。」

「そして、」

「いま、わたしは魔界の主の証明たる指輪をながめている。」

「いままで滅多につけなかつた指輪だ。」

「なに、というわけではないが、どうやらもう一人のわたしはこの指輪がお気に入りらしい。」

「好き、か。」

「わたしは、消えてしまったらもう一人のわたしのことを思い出しながら、あつたためて首を横に振った。」

「妖魔にはいろいろなものよね、と。」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

「33」

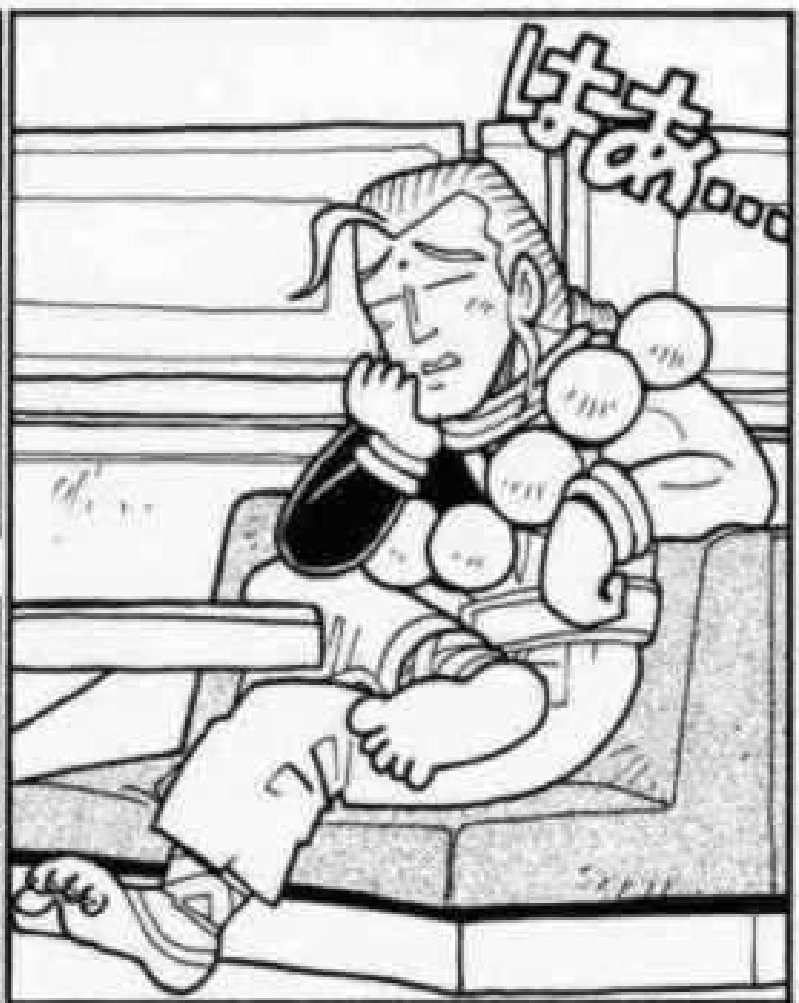
デビルマン



デビルマン
デビルマン

デビルマン





新キョウニ
 ニハ、ウフニ
 マハニニニ
 スニタリニニ



次編の
 新キョウニ
 (H)D(1)J(1)6
 ニニニ





まわる。

← 和 いさぎ

和

← 和

ヤミ!

旦那...
大口の奴
納屋に放り
お植様と
連れ込んで
中...

TREET FIGHTER III



しんぞく

ちよと
そやま

どうも! OSAIです!!
ニニノカセキツス!!!
RPGが2/3から4位の時
うさぐさいですが、大目
見ながら下さい!!
その時で'格闘ゲーム'
ド下手なOSAIはPLAYが
人のうしろで2が43ニニに
4Lはたに2です。うさぐさ。

1997.4

とらびん OSAI

了不得
了不得

香港
風



Not for
under
18 years.

一九九七年

ふじさん
私は今、修学旅行
で香港に
来ているよ。

エレン
エレン、
おはよう。



勝てるも
思いついた...

人目も
多々!!
場所を
移そう.



おれは、
おれは、
おれは、

おれは、
おれは、
おれは、



俺は、
俺は、
俺は、



おれは、
おれは、
おれは、





痛い



私...



んがー初めこぼこ



帰るよ
ありがとう

ヤニ



入って...

KORE KARE!!



ヤニ...
ありがとう



私……

身持て！





エヴァ

117701

- あとがき -

みなさん暑い中いかがですか？
しわか？今回もなんとかが本が出せました。
とこで

「グンパイア、セイヴァー」
なんだけどみなさん
やってます？
ごは、もうかてふ
みなさん
ごきげん



今後は11のコスプレ 117701かな～？

でも出てくるキャラ(ゴウキあたり)も出ない
みたいだし ちゅーとストⅡの時のこと思い
出しちゃったかな、CP買ったのに……

とほまはごきげん感想など いろいろ113113

おまちしております。よろしくね。 横田

丹下拳闘倶楽部

25日のワグザフェスティバルの.
丹下犬スクリーもよろしくね♡.



FUNKY ANIMAL

~ THE SUPER ~

1997.8.15 初版発行
発行所 ~~丹下拳闘倶楽部~~

GRAPH 実業社 様



每
下
機
關
組
樂
囍

